



CONTENTS

本冊子の発行にあたって	01
活動紹介	02
体験オフィスツアー	03
授業インタビュー	04
他大学交流	08
学生FDサミット	10
編集後記	12

FDS Report

Faculty Development Staff

vol.3

学生FDスタッフ活動レポート 2009

編集スタッフ (2009年度学生FDスタッフ)

法学部 3 回生	森山 孝彰	国際関係学部 4 回生 (APU 交換留学生)	山瀬 麻里絵
法学部 2 回生	鈴木 祐太	政策科学部 4 回生	平野 優貴
産業社会学部 4 回生	山西 悠祐	文学部 1 回生	對馬 果莉
産業社会学部 4 回生	牛若 孝治	経営学部 2 回生	横江 利優
産業社会学部 3 回生	太田 郁磨	情報理工学部 4 回生	加藤 僚一
産業社会学部 3 回生	島田 慶一	情報理工学部 4 回生	木原 崇博
産業社会学部 3 回生	谷口 ころこ		

冊子の発行にあたって

この冊子は、教育開発推進機構が進めるFD活動に参加する学生FDスタッフと教育開発推進機構が協力し、作成した冊子で、2009年度の学生FDスタッフ活動を中心に紹介しています。スタッフが取り組みを通じて得たもの、学生が大学や授業に対して感じていること、先生方が授業に対して持っている想い、授業への工夫を少しではありますが紹介しています。是非ご覧いただければ幸いです。

2010年3月 立命館大学 教育開発推進機構

活動紹介

Activities Introduction



学生FDって何って思う人が多いことでしょう。学生FDとは学生の視点で大学の教育を良くする活動のことですから、どうしても授業に関することが中心になりますが、スタッフたちはその取り組みを通して、良い授業や良い仲間との出会いを求め、最終的には自らの成長を目指しています。昨夏から本学のスタッフの呼びかけで「学生FDサミット」が開かれていますが、2010年2月の第2回には39大学180名の学生・教職員が本学で交流しました。ぜひ今年はあなたも一緒に参加しませんか？

共通教育推進機構 教授 木野 茂



2009年度で学生FDスタッフとしての活動は3年目になります。学生FDスタッフの報告書を既刊から通してご覧いただくと、この間の取り組みの充実や学生スタッフの意識は着実に進展していることが分かります。この様な進展の背景には、学生スタッフ同士の成長はもちろんのこと、学生・教員・職員の3者の相互作用が上手くいっているからと考えています。今後も3者が恒常的に互いに良い影響を与え、本学のFD活動、強いては全国のFD活動につながるように努めて参ります。

教育開発支援課 中野 正也



■ 学生FDスタッフとは

そもそもFDとは、Faculty（大学教員組織）とDevelopment（能力開発）の略称で、「授業改善のための組織的な取り組み」を意味するらしい。「なんか難しそうだけど…結局なんなの？」と思ったあなた！ 私たちも最初はそう思っていました！ でも、同じ2単位ならば充実した授業で楽しく取りたいと思いませんか？ そんな意見を反映できるよう、木野先生や職員の中野さんと一緒に、私たち学生FDスタッフは活動しています。「おもしろい学生がおもしろい先生とおもしろい授業を作る」をスローガンに学生ならではの視点でより良い授業を目指しています。

学生FDスタッフ一同





体験オフィスツアー



体験オフィスツアーとは？

体験オフィスツアーは、「学生は研究室に行かないのは勿体ない」そんな何気ない一言から構想が始まり、学生と教員の間にある見えない壁を取り払おうという趣旨で開催しました。

本企画は学生FDスタッフが企画・運営する、学生と教員の垣根を越えた交流企画で、普段あまり訪れる機会のない教員の研究室へ学生を案内します。そこで学生は教員と授業外での交流をすることで、専門分野の話から個人的な話まで話せることで新たな発見があります。学生FDスタッフは、この企画が学生と教員の関係を密にすることを目指しています。

学生FDスタッフは、教員研究室訪問ツアー企画「体験オフィスツアー」を2009年6月12日（金）、19日（金）の2週にわたって行いました。今回は、石原直紀教授（国際関係学部）と鳥居朋子教授（教育開発推進機構）両先生の研究室を訪問し、それぞれ学生5～6名が参加しました。

当日の様子

参加者は研究室に訪問直後は、少し緊張しているためか言葉少なめな感じでしたが、先生方から気さくに話しかけて頂いたお蔭で、徐々に質問することができるようになりました。そこでの会話は両先生の専門分野に関するものが中心でした。訪問から30分後、諒友館地下の「cafe rosso」に移動しました。そこでは専門分野に限らず、時事問題や将来の進路・就職、私生活など、様々な話題で盛り上がりました。参加者と両先生の会話には笑いもあり、気軽に話している様子で、参加者からは様々な見解が聞けて良かった、教授自身を知ることができて良かったと好評でした。

当日に出た質問・話題

石原直紀先生



- 北朝鮮を中心とした国際的核問題
- 先生が国連職員になるまでの話
- 外国人への接し方の違い...etc



鳥居朋子先生



- 大学生の成長に必要なもの
- 教授になるまでの話
- 大学生生活のアドバイス...etc



授業インタビュー



学生FDスタッフが受講して印象に残った授業や、
受講生からの推薦があった授業を担当されている先生方にインタビューさせていただきました。
各授業の授業で特に力を入れている点、学生に特に伝えたいことなどに迫っています。

「これが良い授業」という答えはありません。

授業での様々な取り組みの一部を紹介することでそれぞれの「良い授業」のヒントとなること、
また学生がもう一步踏み込んで学ぶための手がかりとなることを目的としています。

 授業インタビューの詳しい内容は学生FDスタッフのホームページまで！

立命館 FD

検索

01 英米文学概論Ⅰ

必見！関西流ツッコミ講義！

【担当教員】 竹村はるみ先生

【開講学部】 文学部

【受講年度】 2009年度前期

【担当FDS（インタビュー）】
文学部1回生 對馬果莉



授業概要

この授業では、主にイギリス文学作品に触れながら、英米文学を研究するために必要となる基本的な概念や用語について学びます。さらに、詩・演劇・散文（小説）の各ジャンル、文学批評理論を概観しながら、文学研究のための解釈の視点や方法論を勉強します。

印象に残った理由

「先生がアリストテレスやシェイクスピアにつっこんでる（笑）！」。先生のツッコミで、大哲学者や大詩人を少し身近に感じたら最後、原文で作品を読みたくなってくる！？そんな、英米文学の魅力たっぷりの授業です。偉大な先人の言うことを鵜呑みにせず、自分でもつっこんで考えてみることの大切さを学びました。

02 メディアと現代文化

教養で学ぶ社会学

【担当教員】 高井昌史先生

【開講学部】 経営学部

【受講年度】 2009年度前期

【担当FDS（インタビュー）】
経営学部2回生 横江利優



授業概要

メディアが伝える「現代文化」というものを社会的視点から分析する授業です。アニメ、お笑い、ドラマなどの実際の映像を見たうえで、ジェンダー・アイデンティティ・情報化社会などの問題に結び付けて考えていきます。

印象に残った理由

社会学は身近なテーマを扱うので誰もが興味を抱きやすい学問です。1時限にもかかわらず出席している学生が多いことから授業内容に対する関心の高さがうかがえます。では、この授業は単に内容が面白いから学生をひきつけられているのか、授業の舞台裏から先生自身についてまでインタビューしてきました。

03

マーケティング・リサーチ

理工系でも経済・経営を幅広く！

【担当教員】 岡本哲弥先生

【開講学部】 情報理工学部、
理工学部 (MOTプログラム)

【受講年度】 2009年度前期

【担当FDS (インタビュー)】
情報理工学部4回生 木原崇博

授業概要

『企業のマーケティング戦略立案の前過程であるマーケティング・リサーチの理論と実習を扱う』授業です。主に、市場、消費者の意識と行動を理解するためのマーケティング・リサーチの理論を学ぶとともに、コンピュータ実習を通して、入門レベルの情報収集・加工、統計ソフトSPSSを利用した統計分析を学ぶことができます。

印象に残った理由

この授業は理工系でありながら経済や経営学部の内容を学習できるという点で、とても魅力的です。昨年度とは担当の教授が変わっており、シラバスを拝見してみても内容の違うことを行っておられるようなので、その違いなどを比べてみようと思い、今回インタビューを行いました。

05

労働社会学

誰もが関わる「労働」を学ぶ

【担当教員】 大野威先生

【開講学部】 産業社会学部

【受講年度】 2008年度前期

【担当FDS (インタビュー)】
産業社会学部3回生 太田郁磨

授業概要

日本社会における労働や雇用のあり方について、現状や問題点、また諸外国との比較などを扱います。自分たちの意識や生活に影響する問題であるとして、学生である私たちが大学卒業後どのように生きればよいのか考えることができます。

印象に残った理由

ほとんどの学生が大学卒業後経験するであろう「労働」に関する授業であり、非常に当事者の気持ちとなりながら受講することができました。また大教室・大人数の授業でも学生が集中して授業に臨めるような様々な工夫をしておられるためぜひその授業に対する思いを聞きたいと思いました。

04

教養ゼミナール

自分を見つめなおして客観視！

【担当教員】 鳥居朋子先生

【開講学部】 産業社会学部、
国際関係学部、文学部、映像学部

【受講年度】 2009年度前期

【担当FDS (インタビュー)】
産業社会学部3回生 谷口こころ

授業概要

青年期にあたる大学生の発達に関する基本的な理論や具体的な事例の検討を通じて受講生自身が大学生活を設計するための始点を育むことを目的としている。具体的には青年期の発達課題や映画等に見る青年・大学生像、大学の諸機能についての解説を通して受講生が自らの存在を発達の可能態として捉え、主体的に取り組むための視点を培っていく。またミニ演習や小レポートの作成によって大学で求められる能動的な学びのスタイルや思考様式の獲得を促す。

印象に残った理由

なかなか自分をここまで見つめなおす機会がない中で、さまざまな学部のさまざまな学年の人たちと自分について考えることができたところが印象的でした。自分を発見し、そしてみんなに自分を発信する、そしてみんなで共有することができました。

06

日本の近現代と立命館

近現代を学び、立命館を学ぶ！

【担当教員】 小関素明先生

【開講学部】 衣笠全学部 (前期)、
BKC全学部 (後期)

【受講年度】 2009年度前期

【担当FDS (インタビュー)】
政策科学部4回生 平野優貴

授業概要

立命館の創立から今日までの歴史・成り立ちをリレー講義の形式で学びます。草創・黎明期からびわこ・くさつキャンパスや立命館アジア太平洋大学の設置まで社会の移り変わりと共に変化してきた大学や立命館の歴史を多角的な視点から理解できます。

印象に残った理由

立命館大学の在生にとって身近でありながらほとんどの人はよく知らない「立命館の歴史」を学ぶことができる点、さらに単一の視点からではなくあらゆる視点から大学自体の歴史にも触れることができ、印象的でした。

授業インタビュー

07

スポーツ方法論Ⅰ・Ⅱ

授業中にも会話を！スポーツに秘められた力を知る

【担当教員】 今村悟先生

【開講学部】 衣笠全学部

【受講年度】 2007年度前期

【担当FDS（インタビュー）】
政策科学部4回生 平野優貴



授業概要

今村先生のスポーツ方法論ではバドミントンをを行います。バドミントンのルールや技術はもちろん、スポーツを通してのコミュニケーションの有意性をも学びます。グループでの練習やクラス全員との総当たり戦を行うことで受講生同士の交流機会が多いので、積極性が求められます。

印象に残った理由

「スポーツを通してコミュニケーションを学ぶ」という先生の最大のねらいを授業の中で目標として明示される点が印象的です。そのねらいの達成のために受講生同士での交流の輪が広がる方法で授業が行われ、また先生ご自身も受講生との会話を非常に大切にされているためスポーツとコミュニケーションを体感できました。

09

化学Ⅰ

ストーリーを読みとり「わかる」経験を！

【担当教員】 稲田康宏先生

【開講学部】 情報理工学部

【受講年度】 2009年度前期

【担当FD（インタビュー）】
情報理工学部4回生 加藤僚一



授業概要

物理化学分野を中心に、物質の状態や変化を支配する化学の基本的概念や原則・法則を概説し理工系関連のトピックスにも触れます。

印象に残った理由

受講生からの推薦があり、先生にインタビューさせていただきました。詳しくはWebをご覧ください。

08

動機づけ

内容特化で興味を持つきっかけを！

【担当教員】 楠奥繁則先生

【開講学部】 文学部（資格関連科目学芸員課程）、副専攻（教育学）

【受講年度】 2009年度前期

【担当FDS（インタビュー）】
産業社会学部4回生 牛若孝治



授業概要

「セルフエフィカシー」という動機付け理論に焦点を当てた内容です。いろいろな理論を浅く広く学ぶことも重要ですが、とりあえずはこの15回の講義の中で、この「セルフエフィカシー理論」を使って、いろいろな視点から応用力を付けてもらいたいというのが目的です。内容に興味を持った人はより深く学習してほしいと思い、この理論に特化して行っています。

印象に残った理由

私は聴講生でしたが同じように授業に参加でき、また教育実習で得たことを受講生に向けて話す機会を与えていただきました。単位取得の有無にかかわらず共に学ぶ環境づくりを熱心に行われていると感じ、インタビューさせていただきました。

10

アントレプレナー特殊講義Ⅰ

双方向授業でビジネスを考える

【担当教員】 山口俊介先生

【開講学部】
産学協同アントレプレナー教育プログラム

【受講年度】 2009年度前期

【担当FDS（インタビュー）】
情報理工学部4回生 加藤僚一



授業概要

この授業は二部構成で1回の授業が2時限に渡って行われます。前半は山口先生の講義、後半は各分野で活躍されている様々なゲストスピーカーのお話です。

印象に残った理由

前半の山口先生の講義では企業のコンサルティングをなさっている先生ならではのお話、心構えやターゲットの絞り方や起業の狙い方などを学ぶ事ができます。後半に講義をされるゲストの方々ほとんどが自身で会社を立ち上げ成功されている方達で、貴重な経験談やノウハウなど聞く事ができます。また普段はまず会えないゲストの方々へ質問することもできます。まさにこの授業の内容は、他では学べないものだと感じました。

11

税法

身近な「生きる法」を実践して理解

【担当教員】 望月爾先生

【開講学部】 法学部

【受講年度】 2009年度前期

【担当FDS（インタビュー）】
法学部3回生 森山孝彰



授業概要

税は私たちの生活と密接に関係しており、国家財政の基本になるものです。その際の税の基本的な仕組みを定めたのが税法ですが、この授業では税金がどのような原則に基づいて、どのように計算されているかを、所得税を中心に解説しています。

印象に残った理由

私たちは税金を納めるという事実は知っていても、その仕組みまで理解している人は少ないと思います。この授業では具体的事例を交えてわかりやすく解説して頂けるのが受講生に好評でした。複雑といわれる税法をわかりやすく解説する秘訣に迫るべく、インタビューを行いました。



12

日本外交論

実務家から学ぶ外交最前線

【担当教員】 石原直紀先生

【開講学部】 法学部、文学部、国際関係学部、産業社会学部、情報理工学部

【受講年度】 2009年度前期

【担当FDS（インタビュー）】
法学部3回生 森山孝彰



授業概要

この授業は、前年度まで開講していた「総領事リレー講義」と、夏期集中科目であった「日本外交論」を1つにして今年度から前期にて開講されました。毎回、日本外交に関わる実務家の方々をお招きすることによって、現代の国際社会を肌で感じることができます。

印象に残った理由

大学の授業で行われる外交論というのは外交の歴史を中心として研究されるものだという印象が強かったのですが、この授業は現場の前線にいる方々の声を聞くことができるのが魅力です。そして、この授業には800人という大勢の学生の受講登録がありました。今回、このような授業形態に至った理由と、多数の学生の興味を惹きつける理由を探るためインタビューを行いました。

山口歩先生 & 仲間裕子先生対談

言葉では伝えられないものを伝える

【担当教員】

山口歩先生、仲間裕子先生

【担当FDS】

産業社会学部4回生 山西悠祐

対談概要

産業社会学部を代表して先生方お二人に、先生方は授業で何を考え、何を伝えようとしているのかを明らかにしたいと思います。山口先生と仲間先生は広い考えをお持ちで、学生に対して想いを持っておられます。山口先生、仲間先生共に授業に非常に熱心です。講義の中で「いかに学生が主体的に学ぶか」という視点を取り入れて講義をされています。単純にテストに答えるだけでなく、講義中に考えるということの必要性を考えさせられました。



1

第14回FDフォーラム

2009年3月

概要

2009年2月28日(土)および3月1日(日)に(財)大学コンソーシアム京都主催によるFDフォーラムが龍谷大学深草学舎で開催されました。本フォーラムのテーマは、「学生が身につけるべき力とは何か～個性ある学士課程教育の創造～」で、参加者数は昨年度に引き続き1,000名を超えました。

1日目はシンポジウムとして結城章夫山形大学長、石川憲一金沢工業大学長、田中実京都大学高等教育研究開発推進センター長より学士課程教育の方向性について各大学の取り組みを中心に紹介がなされました。2日目は4つのミニ・シンポジウムおよび8つの分科会が催され、様々なテーマのもと議論が交わされました。

感想

私たちFDスタッフは、木野先生がコーディネーターを務める第2分科会「テーマ:学生と進めるFD」に参加しました。分科会ではFDに学生が参加している大学(岡山大学、立命館大学、北九州大学、畿央大学、山形大学)からの報告とそれを受けてのグループディスカッションをしました。報告大学はFDスタッフと今までの活動でつながりのあるところばかりでしたので、学生同士で現状を話し合ったりしました。一方で、この分科会で初めて学生FDを知っていただいた教職員の方々とも大変有意義なお話ができ、今後の学生FDスタッフの活動がさらに広がりのあるものになるのではないかと感じました。

(経営学部 2回生 横江利優)



2

追手門学院大学

6月、12月

概要

6月3日(水)、追手門学院大学の第17回教育研究所セミナーが同大のFD推進委員会と共催で開かれ、木野先生と学生FDスタッフらが招かれました。今回同大学に招かれたのは、教育研究所長の梅村修教授が、3月に開催されたFDフォーラムでの木野先生がコーディネーターを務めた分科会に参加され、そこで立命館大学の学生FDスタッフの活動に深い関心を持っていただいたことがきっかけでした。

当日のセミナーもFDフォーラムのときにならい、木野先生の講演「学生とともに進めるFD」に続いて学生FDスタッフから「学生FDスタッフの活動紹介」の後、「学生とともに進めるFDの可能性」をテーマにグループディスカッションが行われました。参加者は学長・副学長をはじめ教職員、さらには学生の参加が驚くほど多数にのぼり、会場の大会議室が満員になって立ち見も出るほどの盛況ぶりでした。

感想

これまでの他大学交流と同様に追手門学院大学でも、大学間の「垣根」を越えることで得られた成果が非常に多くありました。

交流する機会のあった学生の中には、主に大学施設・設備面の改善・充実に取り組んでいる「学生意識委員会」という学生スタッフがいまいました。私たち学生FDスタッフと同様に、校内での活動内容の認知度向上という課題を抱えており、お互いの活動の発展や課題克服のための方法を出し合うといった機会もありました。

この交流の後、追手門学院大学で学生FDスタッフが発足し、12月には彼らが主催するしゃべり場に参加しました。共通する問題意識を持つ学生同士、切磋琢磨しながら学生が主体的に進めるFDを発展させていければと思っています。

(政策科学部 4回生 平野優貴)



3

岡山大学

9月

概要

9月22日(火)、23日(水)に岡山大学で第6回教育改善学生交流(i*See2009)が開催され、本学から学生FDスタッフ4名と教職員2名が参加しました。今回のテーマは、1日目が「学生主体の教育改善活動について」と題して、参加学生による「学生川柳の作成」や、4大学(大分大学、岡山大学、札幌大学、立命館大学)の学生による「学生が関わるFDの取り組み紹介」の報告がありました。

2日目は「職員が参加する教育改善活動について」でした。学生にとっては、職員がどのような役割を担っているかが分かりづらいために、グループディスカッションの前に2大学(同志社大学、立教大学)の職員による講演が用意されていました。参加したグループのディスカッションの方向性として、職員が参画するFDの推進の前提であるSD(Staff Development)の話が中心となりました。

感想

1日目の始めに、学生が川柳にのせて大学生生活に対する本音を書きました。川柳は学生同士が共感し合うものや初めて聞く意見など、学生が思っていることは様々で、議論ではない新たな形で意見交換が出来る場でした。

2日目では立教大学と同志社大学の職員による講演があり、講演内容はどちらも職員の教育改善活動で、立命館大学の教育活動しか見たことがなかった私にとって、他大学の教育活動は興味深いものでした。

その後、他大学の方と意見を交わすグループワークを行いました。ここで私が一番印象に残ったことは、「国立と私立の違い」で、授業ガイダンスや事務室の在り方は大学ごとに違い、自分の大学のイメージは立命館大学だけしかなかったことに気付かされました。

(法学部 2回生 鈴木祐太)



4 山形大学

9月、12月

概要

本学では、2008年度に「山形大学・立命館大学包括的協力協定」を締結し「学習者中心の大学づくり」の推進につながる取り組みを行っており、2009年度は、学長同士の交流や、教員、職員、学生同士でそれぞれ交流を行いました。

今年の学生交流は、募集・選考し構成された5名の交流学生で取り組みを行いました。具体的な取り組みとして、9月12日(土)から14日(月)にかけて山形に訪問して、山形大学が今年試行的に実施している「最上川学教育プログラム」に参画し、山形大学の学生8名と交流を行いました。

最上川学教育プログラムは、最上川流域の農山漁村と連携して共に学びあう体験的教育プログラムで、訪問した際には、市民活動団体や漁業組合などの現地の方々が講師としてお越しくださり、自然と文化、流域に暮らす人々の知恵と技術をテーマに、歴史的背景を踏まえながら、新たな暮らしや産業のスタイルなどの在り方について講話を頂きました。

その他、フィールドワークでは、松尾芭蕉が下った最上川舟運の要衝の文化に触れたり、ワークショップでは、地域の再生や地域力向上に貢献する大学のあり方などを考察しました。

学生交流では、これらの貴重な体験を通して得られた成果を報告する場として、12月5日(土)に東京にて「成果報告会」を実施しました。本学の交流学生は学生・教員・大学の視点から「おもしろい授業」をつくるというテーマで、山形大学は最上川学サポーターについて両大学の学長にプレゼンテーションを行いました。また「良い授業とは何か」について両学長と交流学生でディスカッションを行いました。

感想

私はこの山形大学との学生交流に昨年度に引き続き参加させてもらいました。今年度は最上川という自然をテーマの軸に交流をしたので、昨年度以上に山形の雄大な自然に触れ合うことができました。また、「最上川学サポーター」と呼ばれる最上川学教育プログラムをサポートする山形大生と交流をともしたことにより、山形大学が地域に根差した大学であるということを変更して実感しました。

成果報告会では、両大学ともに密度の濃いプレゼンを行いその後のディスカッションでも幾度となく話題にのぼるほどでした。さらに、両学長の学生に対する熱い想いや期待も伺うことができ一学生としてとても鼓舞されました。



学生交流という二年にわたり築き上げた両大学のつながりというものを今後もより強固なものにできたらと思っています。

(経営学部 2回生 横江利優)



5 法政大学

12月

概要

12月12日(土)、「2009年度法政大学 第3回FDフォーラム『学生・職員・教員によるFD改善とは』」に学生FDスタッフ代表として参加させていただきました。立命館大学からは私の他に木野茂先生、岡山大学からは学生2人と教員、主催した法政大学からは学生・教員・職員の3者からそれぞれの活動紹介や取組みの発表などを行いました。夕方は情報交換会として他大学からも訪れた多くの学生・教職員と共に交流を深めました。

感想

法政大学とは夏のサミットが初めての交流でしたが、学生と職員・教員から湧き上がるパワフルなオーラに大変驚かされました。12月では大学教育に向けた熱い想いが伝わり、よき仲間・ライバルとして今後も交流を続けていきたいです。

(産業社会学部 3回生 太田郁磨)



学生FDサミット ～大学を変える、学生が変わる～

学生FDサミット・2009夏



学生FDサミット・2009夏を終えたあと運営側ながら強く驚かされたのは、こんなにも多くの方が同じ悩みを抱え、今の大学をよくしていきたいという強い想いを持っているということでした。

学生の立場からはなかなか職員の姿を見ることが少なく、大学に対して不満の声をあげる人が多いのですが、その陰で教員はより学生におもしろいと思ってもらえる授業づくりを、職員はそのバックアップのために日々努力をしています。どの大学の教職員も、「学生が満足する大学づくり」を目指すところは共通しており、それを学生になかなか気づいてもらえないという問題を抱えています。つまり両者を隔てる見えない壁があり、その障害を取り除くという意味でこのサミットは学生・教職員にとって大きな意義があったのではないかと思います。

「学生が満足する大学づくり」には、学生による参画が不可欠だと考えています。「学生FD」と聞くととても大きなことで大変だと思われるかもしれませんが、サミットのように学生と教職員が同じ場で話し合っただけで新たなスタートになると考えています。



しゃべり場 テーマ

- ① ヘンな授業の改善法
- ② 授業アンケートって必要？何のため？
- ③ 高校生から大学生へー初年次教育を考えるー
- ④ 大学で学生が身につけるべき力とは？
- ⑤ 「大卒」って何？ー大学教育の質保証ー
- ⑥ 学生・教員・職員が協力して良い大学を作るには？
- ⑦ 都市の大学、地方の大学、それぞれのデメリットをメリットに変えるには？
- ⑧ 障害の有無にかかわらず大学で学ぶためどのような環境が必要か？

■プログラム内容

1日目 8月29日(土)	オープニング	参加者全員の自己紹介や、他大学を代表した学生によるあいさつを行いました。
	しゃべり場 petit	15のテーマにわかれて学生・教職員混合で話し合いを行いました。
	しゃべり場	人気投票によって8つのテーマにしぼり、さらに深い話し合いを続けました。
2日目 8月30日(日)	懇親会	参加大学にまつわるクイズ大会を行いました。
	しゃべり場 報告	8つのテーマ別に発表を行いました。
	交流グループワーク	学生・教職員混合でどんな学生FDができるか話し合いました。
	エンディング	参加者全員による挨拶が行われました。



2009年8月29(土)30(日)にかけて「学生FDサミット・2009夏～大学を変える、学生が変わる～」が開催され、26大学から100名を超える学生・教職員が衣笠キャンパスに集まりました。学生FDスタッフの活動の中でもこれまでにない大規模な企画で、主催者側となって他大学から大勢の方をお招きする初の試みでした。このような、学生が主役となって大学教育の向上に取り組むという「学生FD」をテーマとした全国イベントは大変めずらしいのですが、この真意には単発イベントに終わるものではなく、「継続してサミットを開催しつづけることによって本当に変化が実感できるイベントにしたい」という思いがあり、「継続性」というキーワードがその根底にあります。そのため1年のうちに夏と冬の2回開催し、学生FDについて各大学で取り組みを行いながら、それを他大学の学生・教職員の方と交流し合うことによってさらに一歩進んだ活動にしたいという強い願いがあります。

学生FDサミット・2010冬



2010年2月20日(土)21日(日)に「学生FDサミット・2010冬」を衣笠キャンパスで再び開催しました。1年に2回の開催とあって、どのくらいの参加者になるのか不安でしたが、39大学180名の方が参加していただき、前回のサミットよりも進化した学生FDサミットを開催できました。

前回参加した大学は夏からどのように変わったか、既に学生FDを行っている大学はどのようなことをしているのかを交流し合い、さらなる学生FDの可能性をどのように広げていくのかを話し合いました。また学生と教職員別のしゃべり場を設けることで、それぞれの立場からより深く学生FDとは何なのかを考えました。今回のサミットで話し合った、学生・教職員が一体となって進める大学づくりの成果を、各大学に持ち帰って活かしてほしいと思います。



■プログラム内容

1日目 2月20日(土)	オープニング	参加者全員の自己紹介を行いました。
	各大学の活動報告	学生FDに取り組む各大学の発表 すでに学生FD活動を行っている全国の大学から、その取り組みの紹介を行いました。
	しゃべり場	学生と教職員に分かれ、それぞれ小グループの中で新たな「学生FD」の企画を考えました。
	懇親会	グループワークで生み出された企画のポスターセッションを行いました。
2日目 2月21日(日)	グループワーク	2日目は学生・教職員混合で、これから各大学でどのような学生FDができるか話し合いました。
	全体発表	グループごとに学生がグループワークの内容を発表しました。

2010年度も学生FDサミットを開催できるように準備しています。学生FDに取り組まれている大学も、これから学生FDに取り組む大学の皆さんも大歓迎です。同じ思いを持つ全国の大学と協力しながら学生FDについて少しでもその考えを共有し、大学をより良くなければと願っています。一緒に学生FDサミットを盛り上げていきましょう！



編集後記

今回の冊子を編集するにあたって、去年よりも充実した内容になったと自負しています。なぜなら、スタッフみんなの協力で、「先生と授業とは」という問いに対しての回答を模索することが出来たからです。多種多様な授業の紹介、学生FDサミットなど、去年の活動より、さらに充実した活動になったと思います。今年度の教訓を活かし、来年度もFDを推進するため、邁進したいと思います。

産業社会学部4回生 山西悠祐



学生FDスタッフとして活動に参加してから1年と半年、実に様々な活動に関わってきました。一つこの活動を通じて得られたものを挙げるとしたら、学内外の別を問わずできた人との「つながり」です。FDという一つのキーワードだけでこれほど多種多様な考えを持った学生・教職員とつながることができ、そのたびに私自身が成長させられた気がしました。また、学生FDというものがまだまだ発展途上で、今も裾野が広がっているのだということも感じました。最後になりましたが、今年度学生FDスタッフに関わってくださった全てのみなさん、本当にありがとうございました!! 来年度も私たち学生FDスタッフをよろしくお願いします!!

経営学部2回生 横江利優



今年の5月に学生FDスタッフになり、授業インタビューや学生FDサミットという活動を通して、色々な方とお話し、考える機会を持つことができました。その中で、次第にその教室にいる学生全員にとって、一番学びやすい環境を、コミュニケーションをとりながら模索していく過程が大切なのではないかなと思うようになりました。その結果、私はユニバーサルな授業づくりという観点から、FDに取り組んでいきたいと思っています。

文学部1回生 對馬果莉



学生FDスタッフ 募集中!!

皆さんも一緒にFD活動を行ってみませんか？

学生FDスタッフでは、良い授業づくりや授業・教育を改善するための活動に興味のある方、企画を運営していきたい方などを募集しております。活動は学生、教員、職員の三者で行っていて、ここにしかない経験もあります。興味のある方は是非お問い合わせください。

また定期的にミーティングも行っていますので、いつでもご参加ください。

応募方法

対象 立命館大学に在籍する学生・大学院生
応募先 立命館大学 教育開発支援課 【衣笠】至徳館4F 【BKC】アドセミナリオ1F
Tel: 075-465-8304 Mail: fd71cer@st.ritsumeikan.ac.jp

立命館大学 教育開発推進機構・教育開発支援課 〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1

R RITSUMEIKAN

TEL: 075-465-8304 (内線 511-7141) FAX: 075-465-8318 (内線 511-7149)
e-mail: fd71cer@st.ritsumeikan.ac.jp http://www.ritsumeikan.ac.jp/acd/ac/itl/itl_fd/index.html